



急性・重症患者看護専門看護師の活動

急性・重症患者看護専門看護師は、緊急度や重症度の高い患者に対して集中的な看護を提供し、患者本人とその家族の支援、医療スタッフ間の調整などを行い、最善の医療が提供されるように支援しています。患者・家族、看護師や多職種や組織に対して、専門看護師の6つの役割（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）を用いて活動しています。患者の速やかな全身状態の安定や、クオリティ・オブ・ライフの尊重に根ざしたケアの提供に努めています。活動の場は地域の中核病院や大学病院など医療施設の救命救急センター、ICU・CCU・救急外来、看護部管理室、また大学・大学院などの教育機関など多岐に渡っています。様々な場で看護実践や相談、チーム医療とケアシステムの構築、社会活動、研究活動など、より質の高い看護を提供するために多様な活動を行っています。

所属部署と役職

【所属機関】

地域の中核病院、大学病院、大学・大学院

【配置】

集中治療室（ICU）、救命救急センター、冠動脈疾患集中治療室（CCU）、一般病棟、看護専門外来、周術期外来、看護部管理室

【職位】

管理者、中間管理職、スタッフ、教員

【主な活動】

- ▶ICU・CCU、救命救急センターなど、部署に配属されて師長、副師長もしくはスタッフとして活動
- ▶看護部管理室やチーム医療室などで組織横断的にフリーで活動
- ▶師長や副師長など、管理職を兼任しながら活動
- ▶大学・大学院などの教育機関で、CNSコースの学生や学部生の教育および研究活動

▶登録者の情報は、日本看護協会HPをご参照ください。 <http://www.nurse.or.jp/nursing/qualification/senmon/touroku.html>

活動内容

活動内容は、個人、家族及び集団に対する直接的な看護実践。看護職を含むケア提供者に対する相談（コンサルテーション）。必要なケアが円滑に行われるための保健医療福祉に関わる人々間の調整。患者・家族及び集団の権利を守るための倫理的な問題や葛藤の解決をはかる倫理調整。専門看護分野におけるケアを向上させるための看護師に対する研修会、研究指導及び講演会等での活動を含む多様な教育的機能。専門知識及び技術の向上ならびに開発を図るための実践の場における研究活動などを行っています。

看護実践

- ・直接的または間接的看護実践による患者・家族の問題点の明確化、ケア計画の立案や指標を用いた評価の支援、安全な早期離床、安全な人工呼吸器からの離脱、治療に対する意思決定（患者と家族への説明、治療の選択、緩和ケア、死への教育）への支援、家族ケア

看護師や多職種からの相談 （コンサルテーション）への対応

- ・看護ケアの相談（重症患者のフィジカルアセスメント、倫理調整、多職種間の調整など）
- ・看護研究支援、院内教育（企画運営、講義、ニーズに応じた学習会や事例検討会、急性・重症患者看護領域の自主研修企画・運営）、認定看護師のサポート

社会活動

- ・学会評議員、学会誌編集委員、専任査読委員、心肺蘇生法インストラクター
- ・地域の看護師勉強会の開催、地域の患者会への参加
- ・看護系専門学校・大学・大学院や専門看護師・認定看護師教育課程での講義・実習支援、学会等での講演・シンポジスト、地域における救急蘇生講習会の企画・運営、看護系雑誌の執筆
- ・集中治療医学会主催「集中治療における終末期患者家族ケア講座」へインストラクターとして参加

チーム医療とケアシステムの構築

- ・院内のチーム医療の促進・支援体制の構築（呼吸ケアサポートチーム、栄養サポートチーム、せん妄チーム、院内救急対応チーム、周術期管理チームなど）

研究活動 CNS成果研究（グループ活動）

- ・クリティカルケア領域におけるエンド・オブ・ライフケアに関する研究
- ・集中治療室入室中のケアが退室後の記憶と精神状態に及ぼす影響について
- ・急性・重症患者看護師の活動可視化のために、活動実績のデータベース化の検討

急性・重症患者看護専門看護師の活動による効果例

- ・呼吸ケアサポートチームなど多職種協働による人工呼吸器からの離脱促進
- ・術後せん妄など混乱状態にある患者への支援による状態悪化の予防や症状の軽減
- ・生体侵襲後の二次的合併症予防ケアと回復の促進
- ・患者・家族への悲嘆ケアや価値・信念に関連する苦痛の軽減



※専門看護師に興味のある方は、日本看護協会の一般社団法人日本専門看護師協議会のホームページ<http://jpnncns.org/>にアクセスしてみてください。専門看護師の活動や、専門看護師を目指す看護職のための相談会やセミナーなども行っています。

